

プリペイドカード

「サーバー型」悪用も

(2014年12月23日掲載原稿)

プリペイドカードは事前にバリュー（価値）をチャージ（入金）して、商品やサービスの支払いに利用することができます。

バリューを記録する場所、つまり記録媒体によって「紙型」「磁気型」「IC型」「サーバー型」に分類されます。

近年、チャージしたバリューをプリペイドカード発行会社のサーバーで管理する「サーバー型」が増えています。この場合、カードそのものがなくても、カード番号だけで利用することができます。

このため、「アダルトサイトのワンクリック詐欺に遭い、指示されるままコンビニ払いで相手の電子マネーにチャージしてしまった」というような「サーバー型」の仕組みを悪用したトラブルが発生しています。

プリペイドカードは誰がチャージし、誰が利用したのか分からない、匿名性の高いサービスです。悪質業者にカード番号を伝えたりして、バリューを渡してしまうと、取り戻すことは大変困難になります。安易に他人にプリペイドカード番号を伝えたり、指示された番号にチャージしたりしないようにしましょう。

こうしたことでトラブルになった場合には、レシートなどを保管した上で早急にプリペイドカード発行会社に連絡してください。

悪質業者は取得したバリューをすぐに利用してしまうため、発行会社が確認した時にはすでにバリューがなくなっていることが多く見られます。しかし連絡が早ければ、使用を停止することができる場合もあります。

近年、消費者はさまざまな支払い手段を選べるようになりましたが、新しい決済サービスには複雑な仕組みのものが多くあります。よく理解して利用することが大切です。